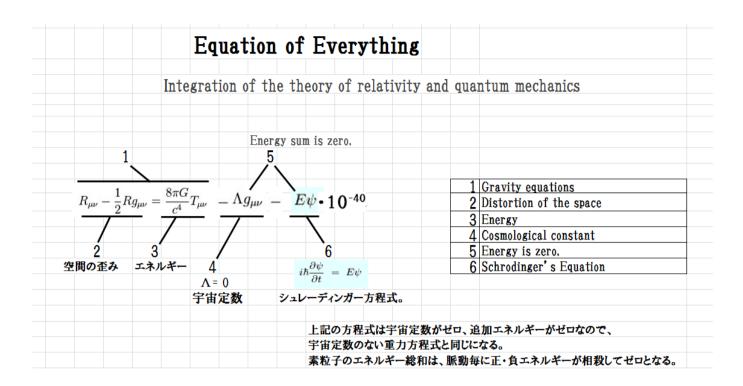
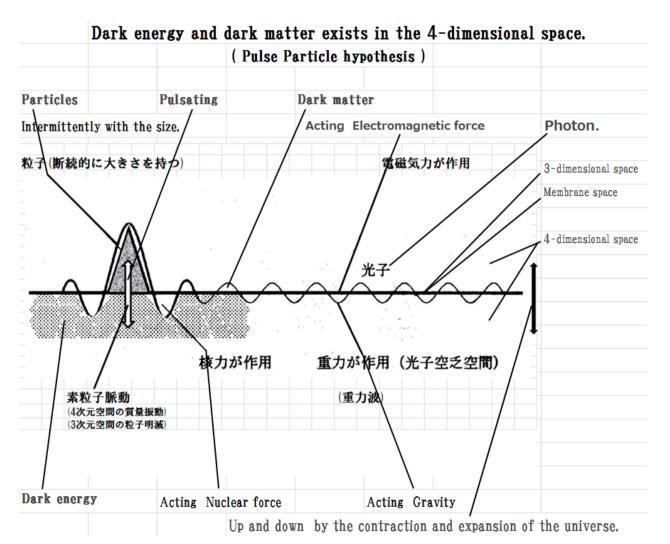
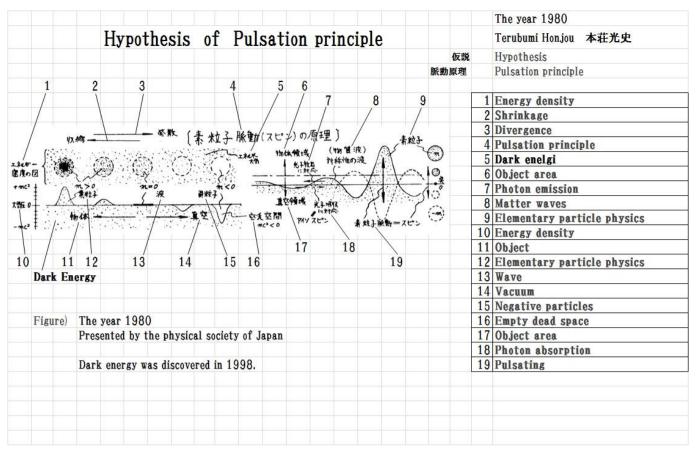
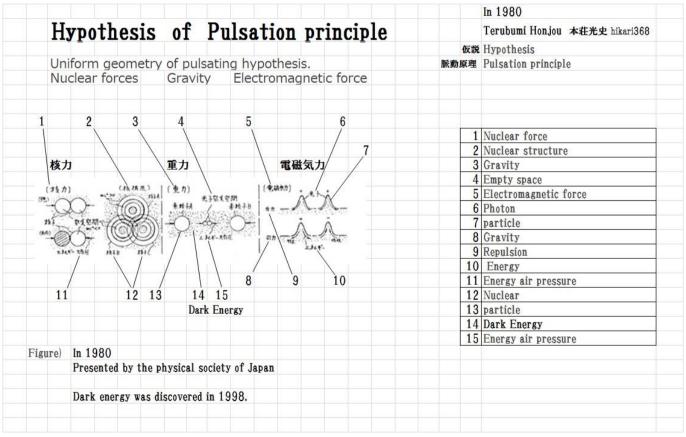
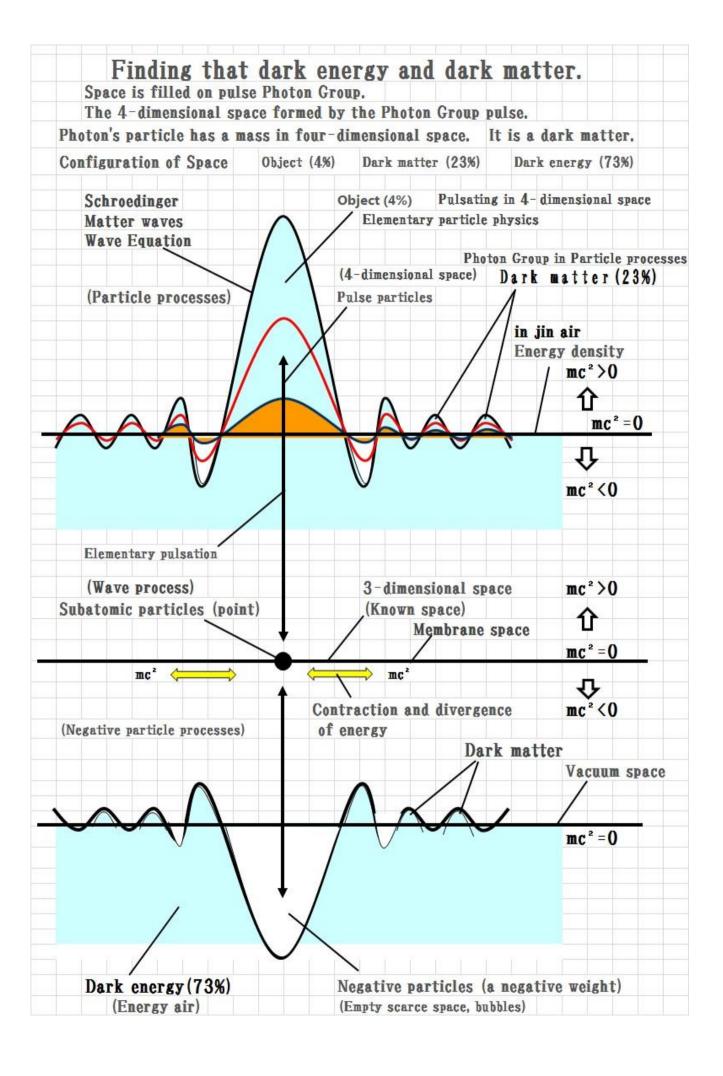
Theory of relativity and quantum mechanics.

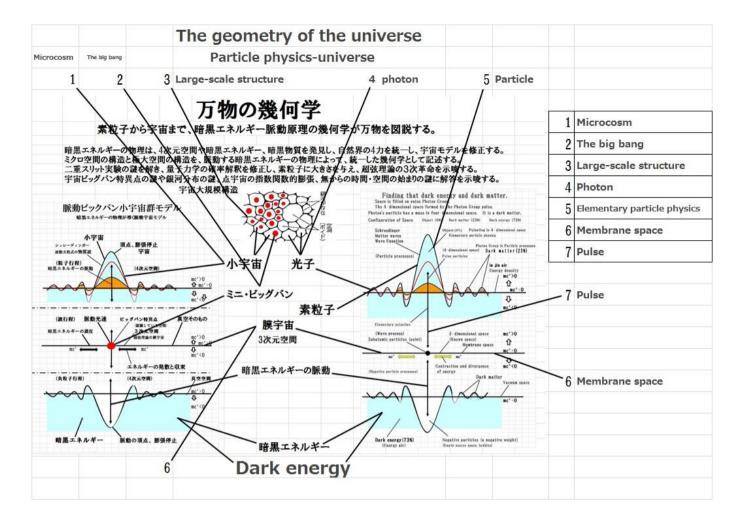












Extends the subatomic level gravity equations of the general theory of relativity and the integration of quantum mechanics. Is the vacuum energy is the cosmological constant of gravity equations and difference in value due to quantum-mechanical calculations and measurements becomes even 120 places an enormous error and. Set-off of any cosmological constant to zero energy is expected. After zero energy fluctuation of elementary particles are added to the gravity equation that is expected. Believe that dark energy pulsating principle can be corrected above.

Chapter 12.

Equation of the universe (quantum gravity equation).

- [1] quantum gravity equation
- [2] Grounds zero cosmological constant of quantum gravity equation.
- [3] The challenge of quantum gravity equation.
- [4] The challenge quantum gravity equation, part 2
- [5] The challenge of quantum gravity equation (3)
- [6] Gravity equations apply to particle physics.
- [7] universal gravitation constant is zero when all things become the vacuum.
- [8] all things equation diagram
- [9] Cover of quantum gravity equation.

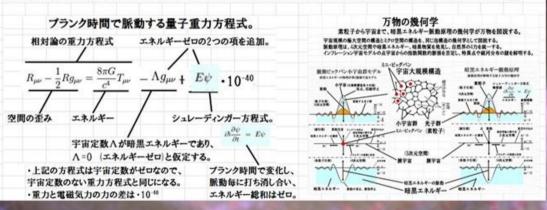
第12章 万物の方程式・(量子重力方程式)

- [1] 量子重力方程式
- [2] 量子重力方程式の宇宙定数をゼロにした根拠
- [3] 量子重力方程式への挑戦
- [4] 量子重力方程式への挑戦、その2
- [5] 量子重力方程式への挑戦(3)
- [6] 重力方程式を素粒子に適用する。
- [7] 万有引力定数がゼロの時万物が真空になる。
- [8] 万物の方程式図
- [9] 量子重力方程式の表紙

暗黒エネルギー脈動原理

万物の方程式 (一般相対論と量子力学を融合する)

- 1) 一般相対性理論の重力方程式を素粒子脈動原理に適用し、量子重力方程式として宇宙から素粒子までを表わす。
- 2) 宇宙定数を暗黒エネルギーであると仮定し、暗黒エネルギーの密度をエネルギーゼロの水平線として表した暗黒エネルギー波形図において、水平線の上下が4次元空間、水平線が3次元空間であると仮定する。水平線は勝宇宙に相当する。
- 3) 水平線から上成分が正エネルギー、正質量であり、水平線から下成分が負エネルギー、空乏空間(重力が作用)である。
- 4)プランク時間の周期で重力方程式の空間の歪みが正~0~負の変化を繰り返し、素粒子から宇宙まで万物が脈動する。
- 5)空間の歪みがゼロの時、暗黒エネルギー脈動原理の水平線を表し、真空そのもの、3次元空間の膜宇宙を表す。
- 6) 空間の歪みが負の時、光子による空間の歪みに暗黒エネルギーの圧縮力が作用し、空乏空間は重力子として作用する。
- 12)宇宙空間は脈動する光子群に満たされブランク時間で明滅し、素粒子をはじめ、人間も、自然も、万物が明滅している。 E↓



- 1) 真空空間のエネルギー試算値と観測値との120桁の差を、暗黒エネルギーの密度をエネルギー、ゼロ(エネルギー波形図の水平線)と仮定することで、宇宙定数 Aがゼロであるとして宇宙項の影響しない重力方程式を実現する。
- 2) 脈動原理の超対称性機構によって正・負のエネルギーを相殺し、重力方程式に加えた物質波の方程式のエネルギー総和がゼロであるとして、この項の影響を
- 10-40 以下とした重力方程式を実現する。 この項は量子力学の波動方程式。
- 3) 重力方程式のフリードマン方程式において、正・負のエネルギーが存在し、エネルギー密度と圧力の和がゼロと仮定し、時空が膨張・収縮する方程式を実現する。
- 4) 電磁気力を重力方程式に組み込んだカルッアー・クライン方程式の余剰次元を、暗黒エネルギー脈動によるエネルギー波形図の4次元空間によって表わす。
- 6) 暗黒エネルギー脈動原理は、素粒子や原子、人間や自然、地球や太陽、星や銀河など、万物がプランク時間で明滅していることを示唆している。